

2025年度 第3四半期 決算説明会

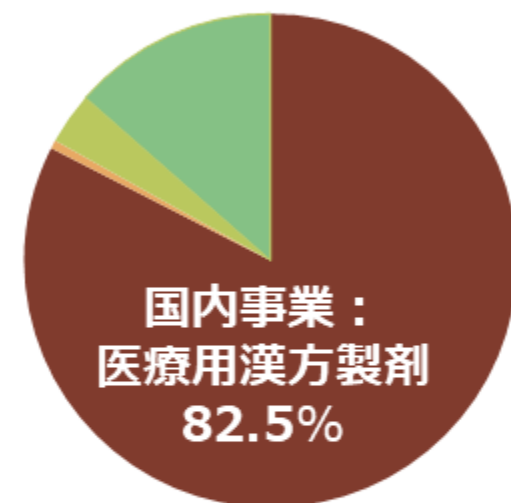
2026年2月6日
株式会社ツムラ

2025年度 第3四半期 決算概況



【百万円】	2024年度 3Q実績	2025年度 3Q実績	前年同期比	
			金額	増減率
売上高	136,773	145,176	+8,402	+6.1%
国内事業	122,880	125,543	+2,662	+2.2%
中国事業	13,892	19,632	+5,739	+41.3%
営業利益	32,380	28,862	△3,518	△10.9%
国内事業	32,568	28,211	△4,357	△13.4%
中国事業	△187	651	+838	—
経常利益	35,151	31,907	△3,244	△9.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26,567	23,151	△3,416	△12.9%

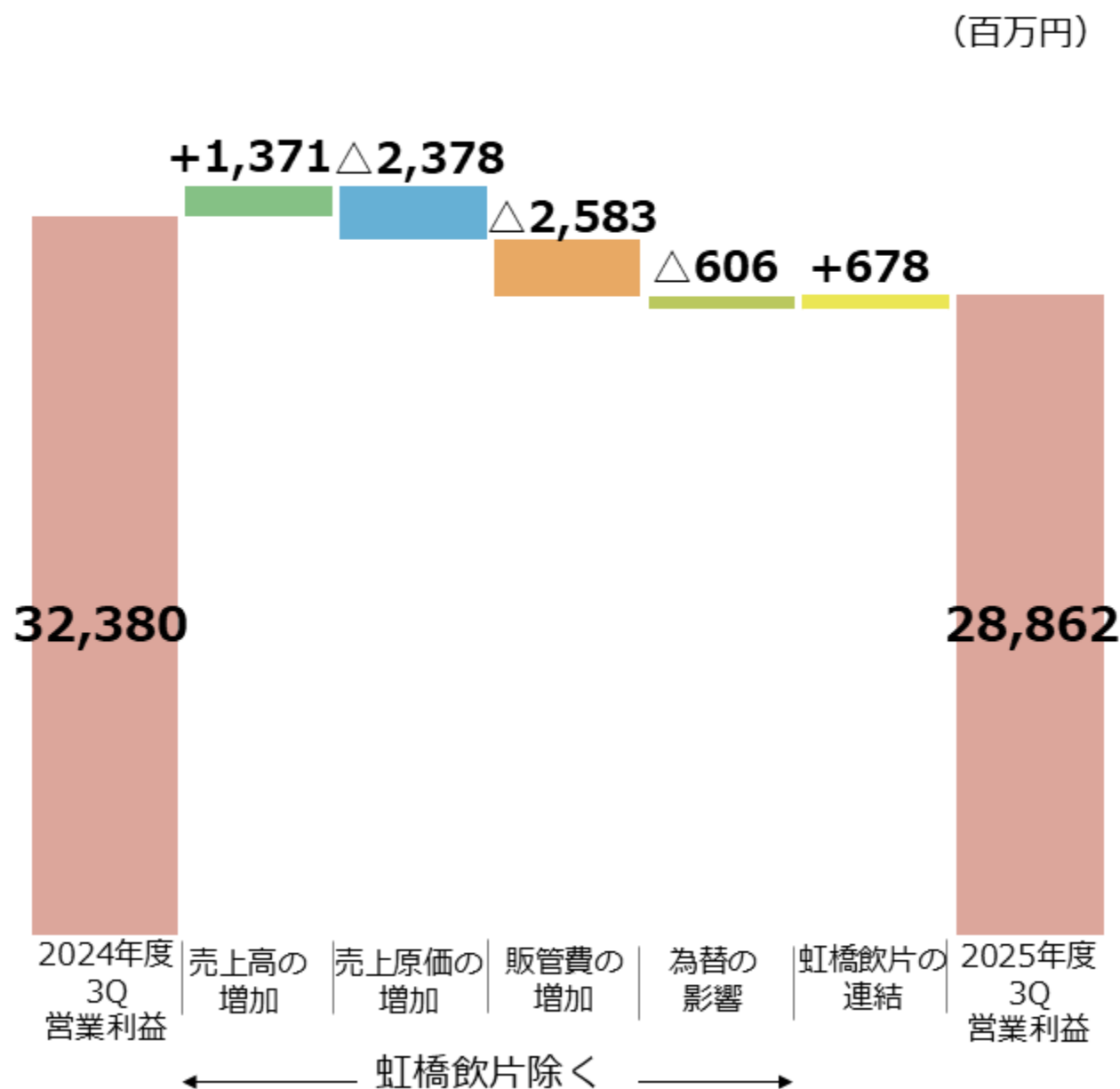
売上高構成比率



- 中国事業：生薬プラットフォーム 13.5%
- 国内事業：ヘルスケア製品（一般用漢方製剤等） 3.4%
- 国内事業：その他 0.6%

売上高		145,176 百万円	前年同期比	+6.1%
■ 国内事業	医療用漢方製剤（129処方）		: 119,816百万円	前年同期比 1.6%増加
	ヘルスケア製品（一般用漢方製剤等）		: 4,919百万円	前年同期比 21.8%増加
■ 中国事業	原料生薬、飲片、大健康製品等		: 19,632百万円	前年同期比 41.3%増加
営業利益		28,862 百万円	前年同期比	△10.9%
営業利益率		19.9 %	前年同期比	△3.8pt
■ 原価率 : 52.2% 前年同期比 +3.2pt（対前年：未実現利益の一時的な増加、中国事業売上高比率増加） ■ 販管費率 : 27.9% 前年同期比 +0.5pt（対前年：給料諸手当、情報提供に関する費用の増加）				
経常利益		31,907 百万円	前年同期比	△9.2%
■ 海外子会社への貸付金等に係る為替差益 : 2,926百万円			前年同期比 + 991百万円 ※為替差益は業績予想には織り込んでおりません	
親会社株主に帰属する 四半期純利益		23,151 百万円	前年同期比	△12.9%
■ 政策保有株式売却益 : 2,193百万円		前年同期比 △757百万円 ※第3四半期以降の政策保有株式の売却益は業績予想には織り込んでおりません		

営業利益の増減要因（前年同期比）



売上高の増加 +1,371百万円			
国内事業（販売数量、販売構成）			+1,136
中国事業			+234
売上原価の増加 △2,378百万円			
国内事業	生薬費	国内生薬費（うち未実現利益△1,604）	△1,549
		中国エキス粉末に含まれる生薬費	△161
	原資材費		△420
	加工費	国内加工費	+3
		中国エキス粉末の加工費	△11
中国事業	売上高構成比率の増加		△240
販管費の増加 △2,583百万円			
給料諸手当			△1,466
業務委託費（情報提供に関する基盤強化等）			△245
販売促進費（情報提供に関する費用の増加等）			△197
その他			△675
為替の影響 △606百万円			
虹橋飲片の連結 +678百万円			

財政状態およびキャッシュ・フロー

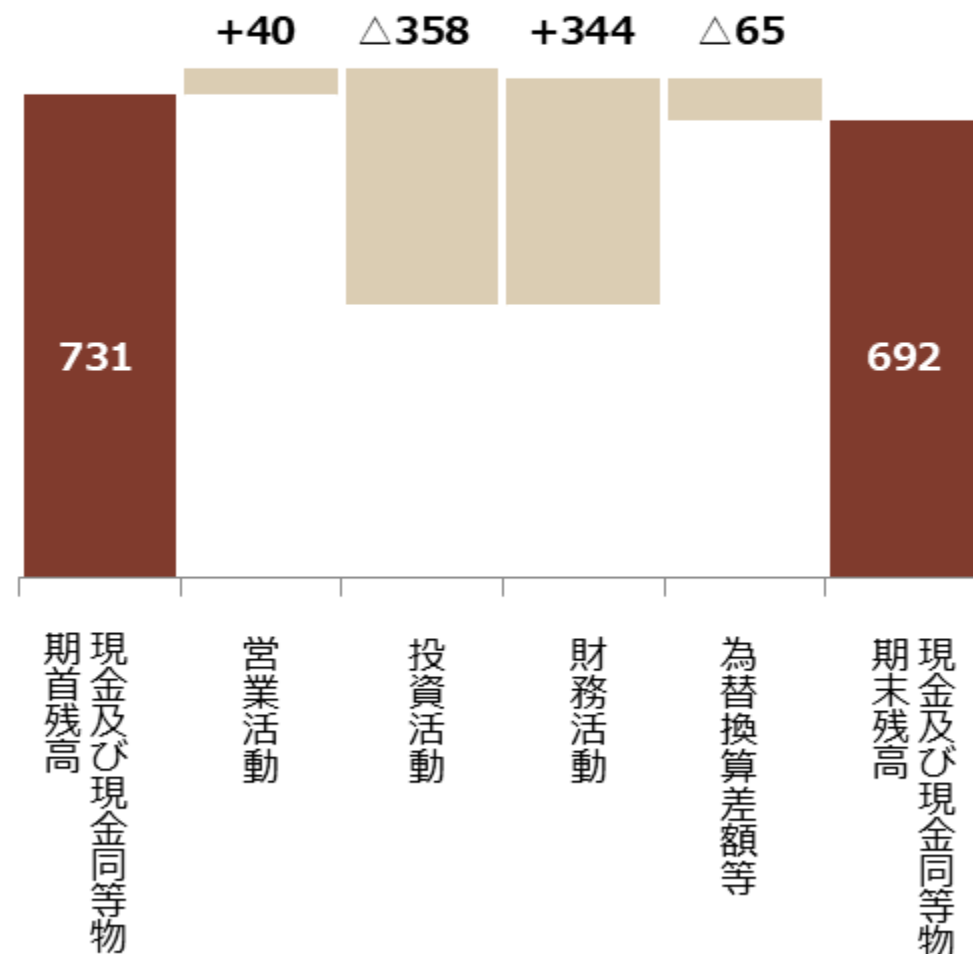


(百万円)

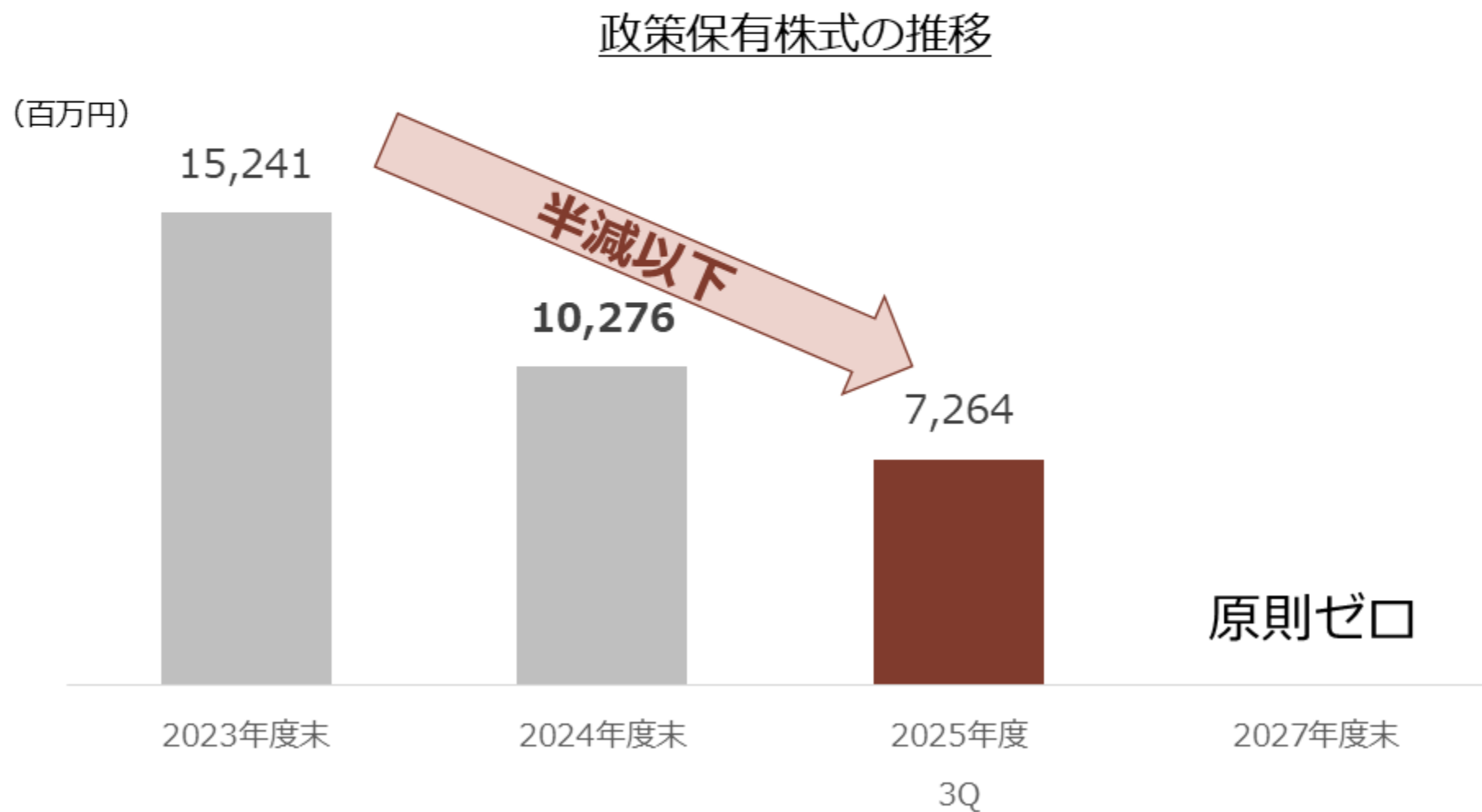
	2024年度 (2025年3月末)	2025年度 3Q	増減額	内、虹橋 連結影響
資産合計	464,380	549,684	85,304	23,753
流動資産	295,709	331,558	35,848	16,640
固定資産	168,670	218,126	49,455	7,113
負債合計	134,270	211,040	76,770	19,060
流動負債	61,913	125,058	63,145	6,126
固定負債	72,357	85,982	13,624	12,933
純資産合計	330,110	338,643	8,533	4,692
自己資本比率	64.7%	55.5%	△9.2pt	

	2024年度 (2025年3月末)	2025年度 3Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	133,784	150,837	17,054	△3,290
商品及び製品	14,939	21,761	6,822	△270
仕掛品	20,197	24,509	4,312	△163
原材料及び貯蔵品	98,647	104,567	5,920	△2,857

(億円)



政策保有株式は半減（2023年度末比）を実現、今後も継続的に縮減を実施



国内事業：医療用漢方製剤 処方別売上高



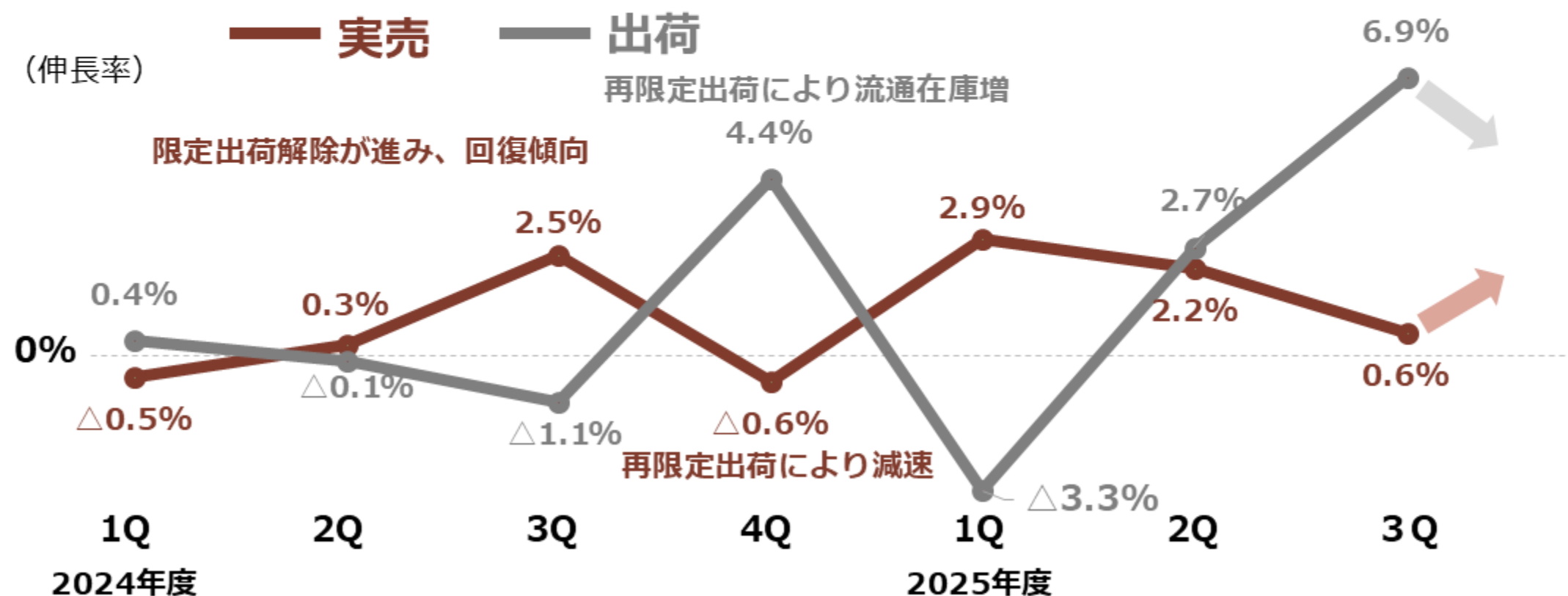
(百万円)

	売上 順位	製品No. / 処方名	2024年度 3Q	2025年度 3Q	前年同期比		【参考：実売数量*】 前年同期比
育薬処方	1	100 大建中湯	11,367	11,426	+58	+0.5%	+1.9%
	2	54 抑肝散	8,602	8,629	+27	+0.3%	+2.7%
	5	43 六君子湯	5,486	5,626	+140	+2.6%	+0.8%
	7	107 牛車腎気丸	4,281	4,347	+66	+1.5%	+2.6%
	24	14 半夏瀉心湯	1,113	1,198	+85	+7.7%	+5.4%
育薬処方合計			30,852	31,229	+377	+1.2%	+2.1%
Growing処方	3	17 五苓散	5,751	6,526	+775	+13.5%	+15.4%
	4	41 補中益気湯	5,879	5,970	+91	+1.6%	△0.9%
	9	24 加味逍遙散	3,786	3,958	+171	+4.5%	+2.2%
	17	137 加味帰脾湯	1,740	1,908	+167	+9.6%	+6.7%
	19	108 人參養栄湯	1,645	1,636	△8	△0.5%	△4.5%
Growing処方合計			18,803	20,001	+1,197	+6.4%	+6.3%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			68,248	68,585	+336	+0.5%	+0.7%
医療用漢方製剤129処方合計			117,904	119,816	+1,912	+1.6%	+1.9%

* 実売数量とは、医薬代理店・卸から医療機関に納入された数量

年末年始の営業日に加え、感染症の流行が想定を下回ったことで流通在庫は高水準

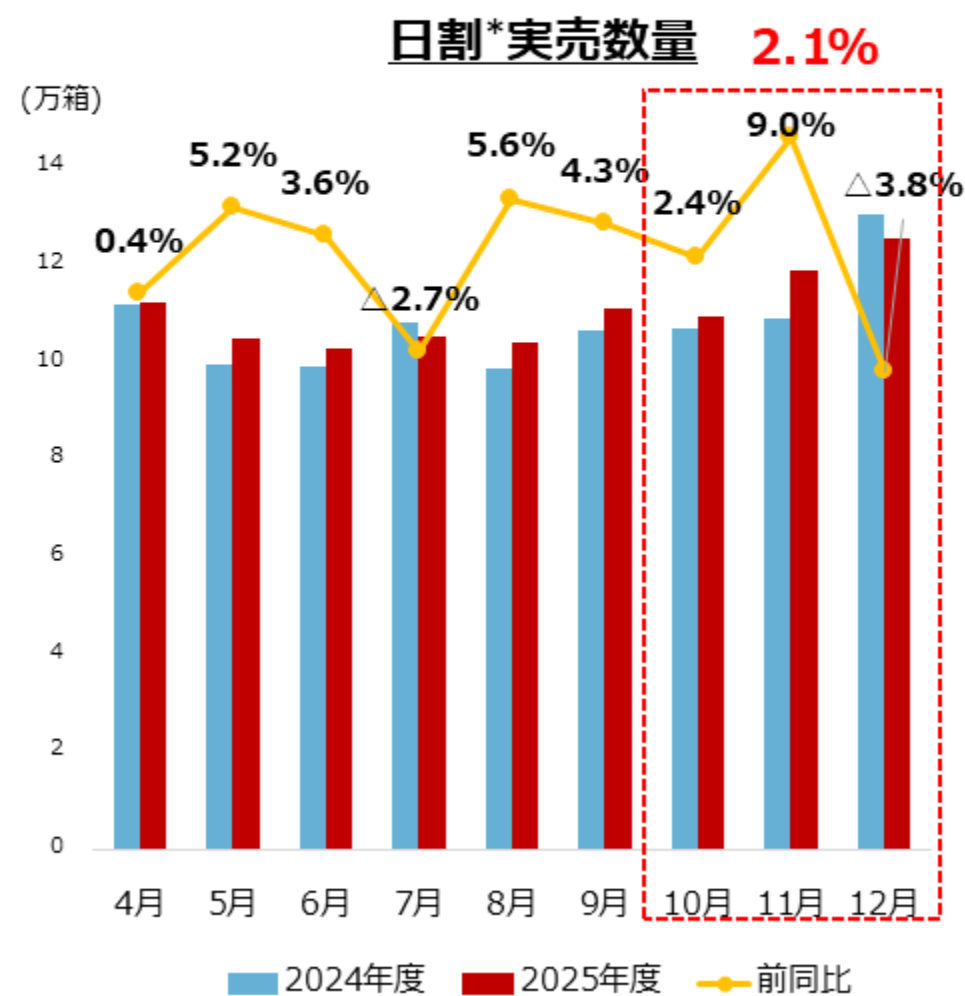
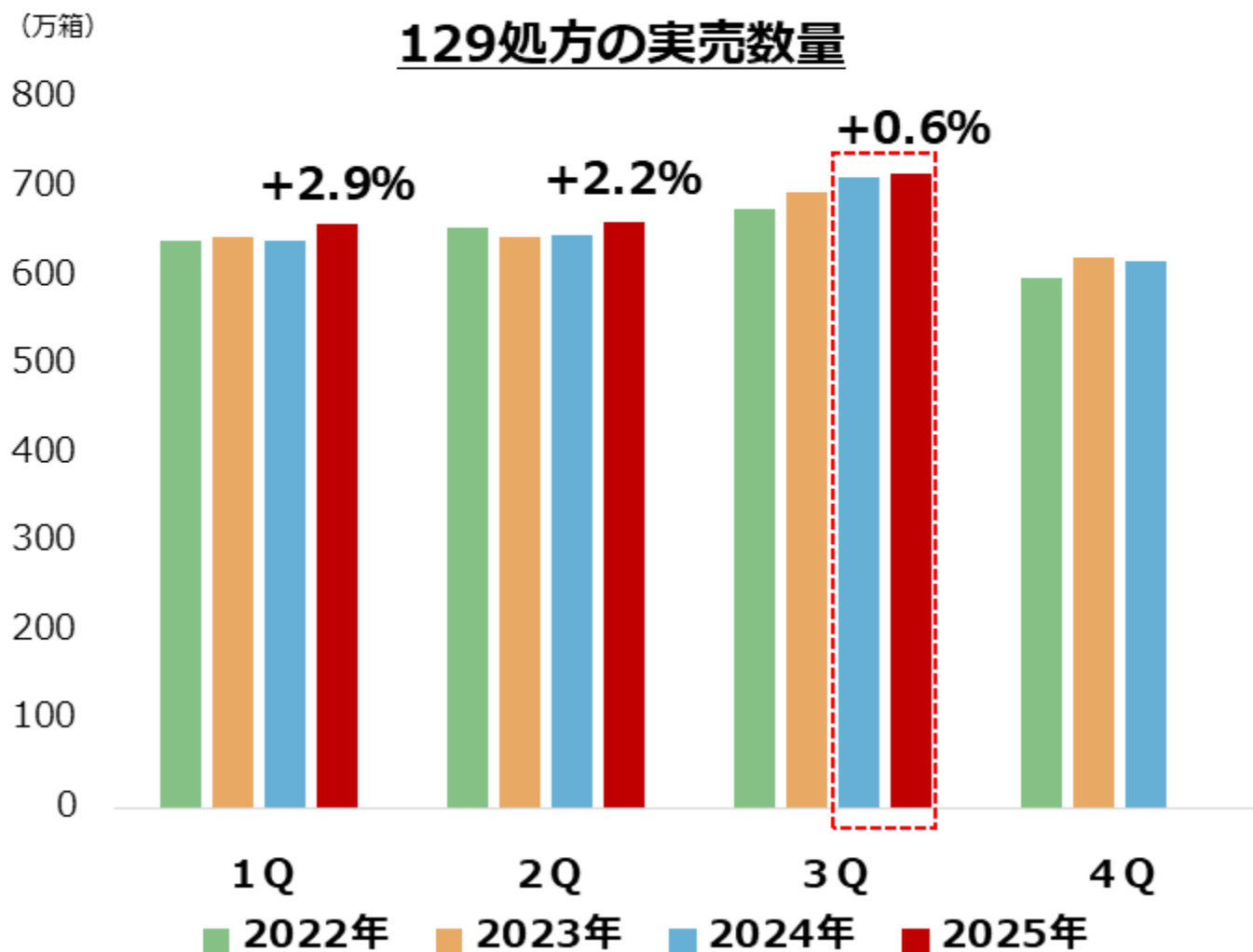
医療用漢方製剤129処方の販売数量伸長率（出荷・実売）の推移



国内事業：医療用漢方製剤129処方の実売数量推移



前年同期比でプラス伸長は継続、日割実売数量はプラス2.1%



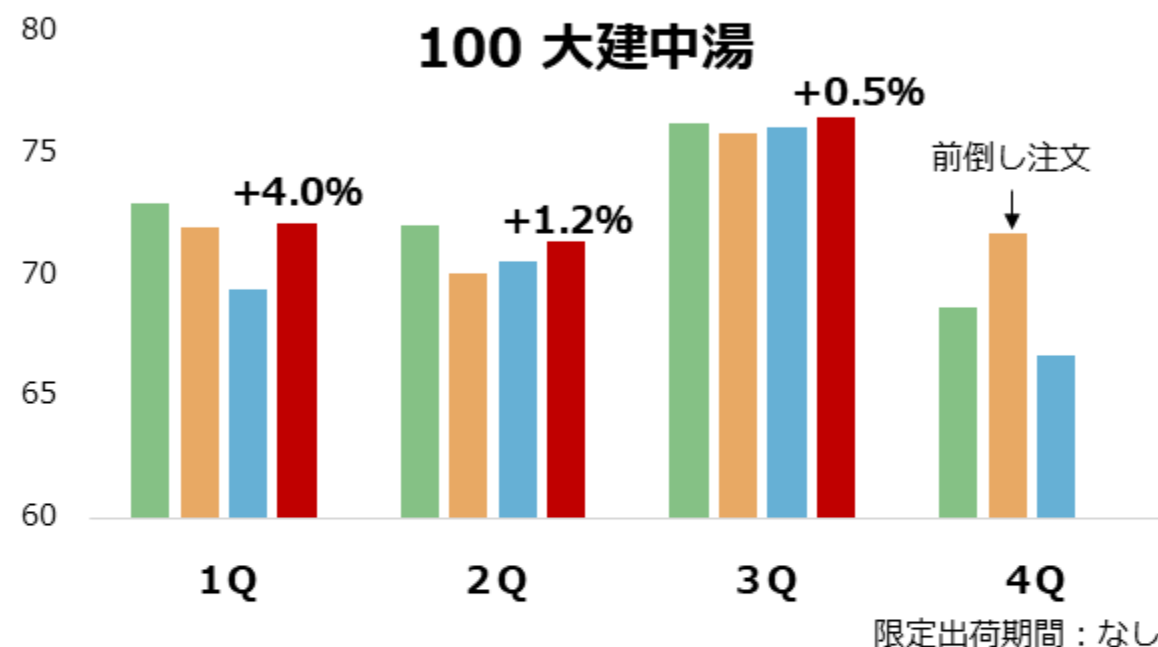
*月ごとの営業日数を考慮して算出

国内事業：実売数量推移（大建中湯・抑肝散）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

(万箱)

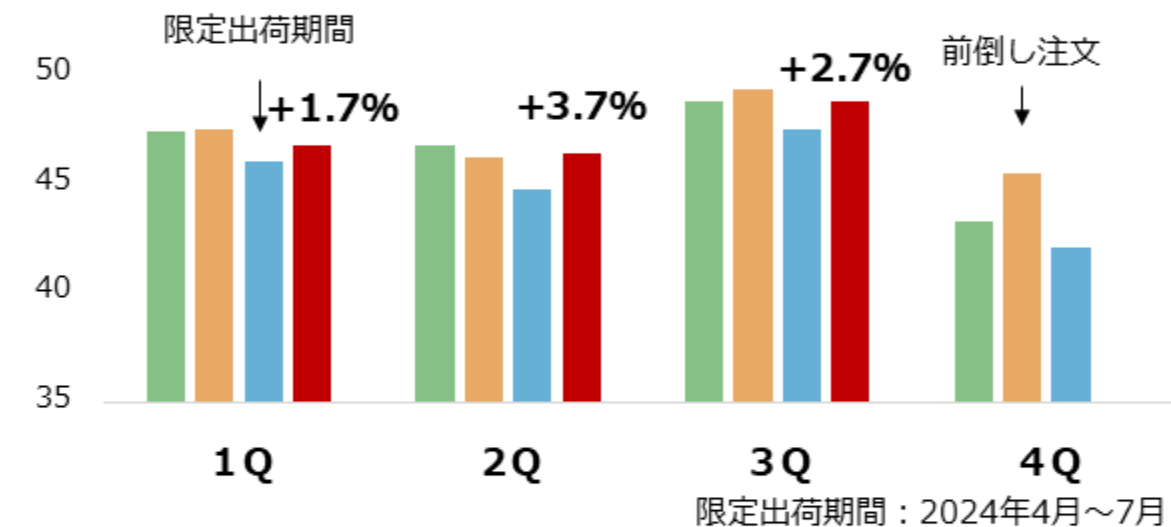


22～23年度：コロナの影響で手術数減少や他処方への限定出荷の影響により横ばい。

24年度：薬価改定による23年度4Qの前倒し注文の影響を考慮するとほぼ横ばい。

25年度：3Qは22年度同期間の数量を回復。4Qも22年度同期間越え（前年同期間比+4%程度）を目指し、がん診療連携拠点病院などでの情報提供活動を強化。

(万箱)

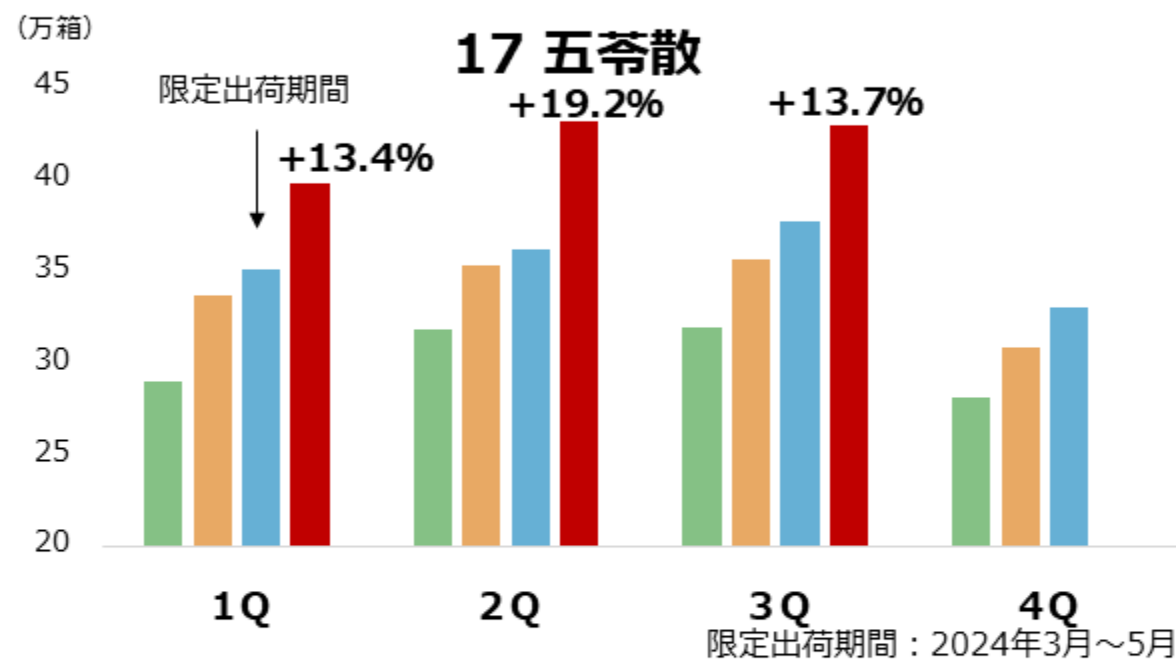


24年度：限定出荷前の前倒し注文の影響や他処方への切替もあり減少。限定出荷解除後も、一部他処方の再限定出荷もあり回復が遅れる。

25年度：認知症にともなう精神神経症状に加え、他の診療領域においても不眠やイライラなどの症状に展開中。3Qは22年度同期間の数量まで回復。4Qも22年度同期間越え（前年同期間比+4%程度）を目指す。

国内事業：実売数量推移（五苓散・加味帰脾湯）

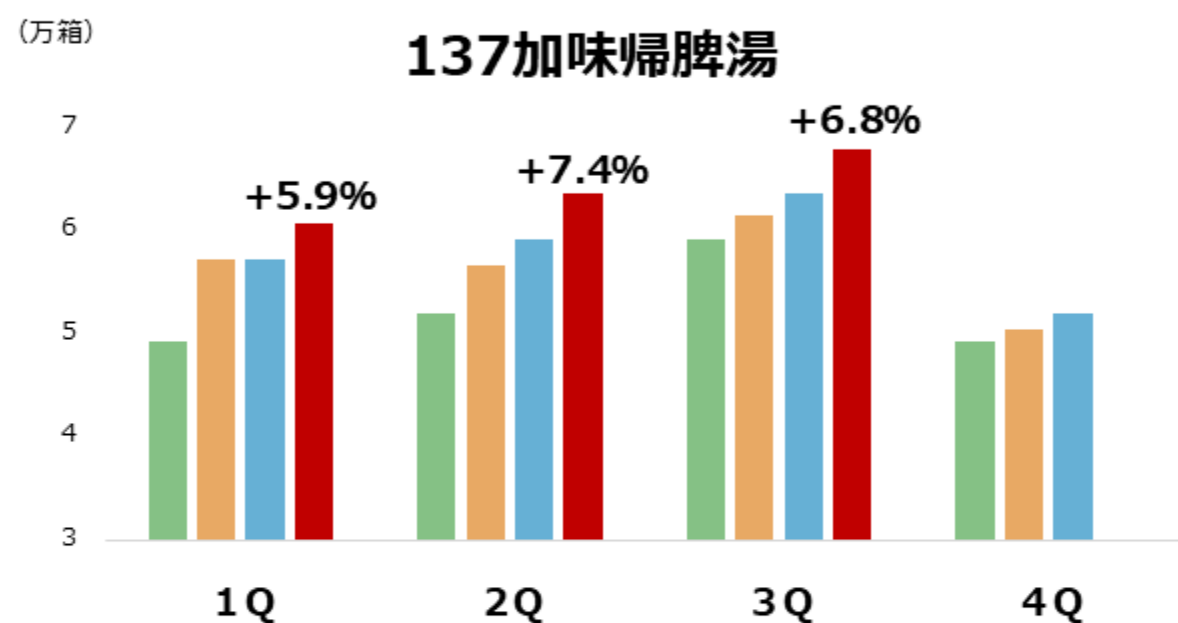
■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度



23年度：浮腫、めまい、頭痛等の症状で脳神経外科、耳鼻科等で伸長が継続。

24年度：限定出荷期間に伸び悩んだが、解除後回復。

25年度：循環器領域の浮腫にも注力。4Qも3Qまでと同水準の伸長を目指す。



22～23年度：コロナ後遺症の不安、不眠などの需要により伸長。

24年度：不安・不眠の処方として認知定着し継続伸長。

25年度：月経前症候群、月経前不快気分障害の不安などへの使い分けを展開し、伸長幅拡大。4Qも3Qまでと同水準の伸長を目指す。

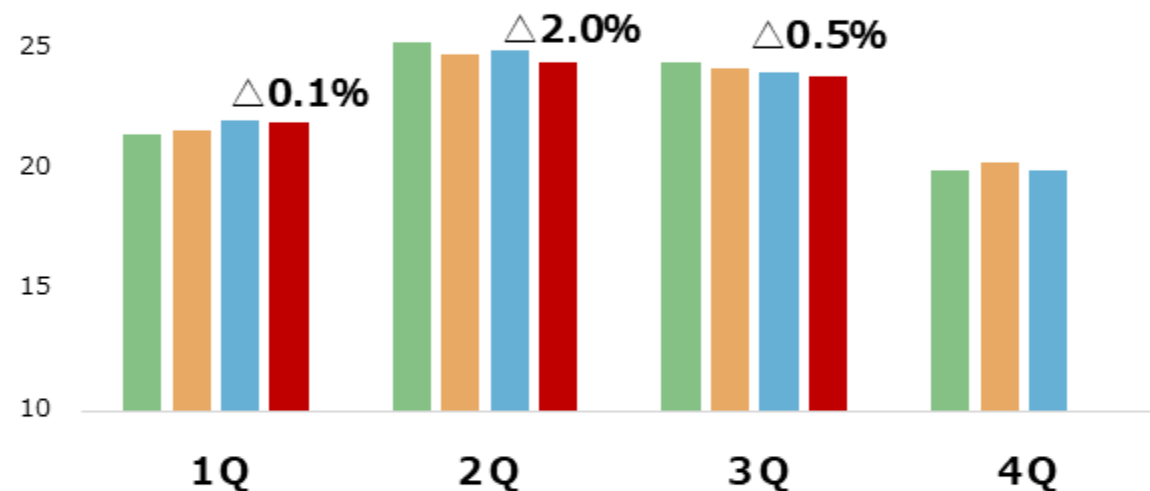
国内事業：実売数量推移（補中益気湯・人參養栄湯）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

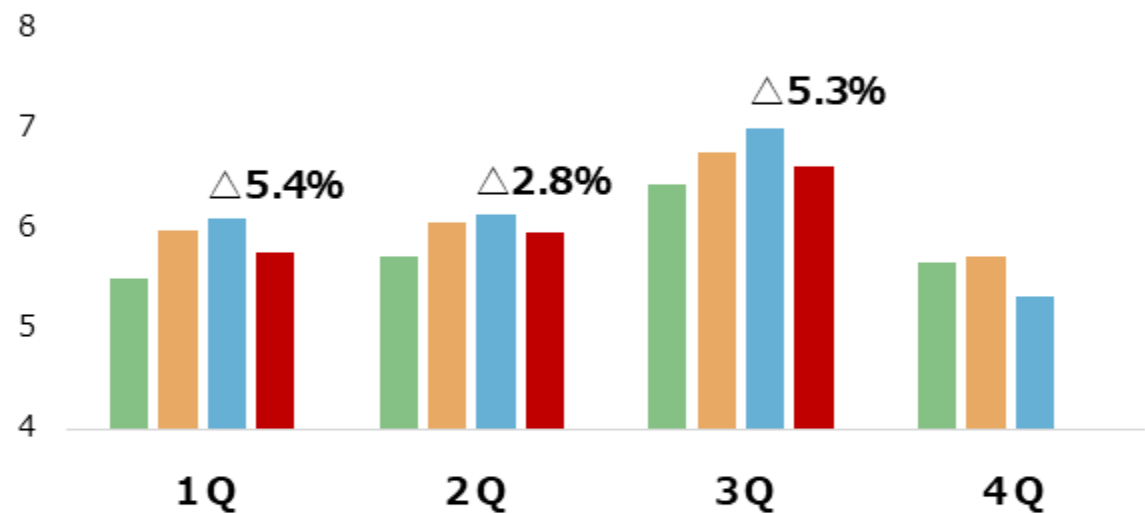
(万箱)

41補中益気湯



(万箱)

108 人參養栄湯



限定出荷期間：2024年12月～2025年1月

22～23年度：コロナ後遺症などの倦怠感の需要があり伸長。

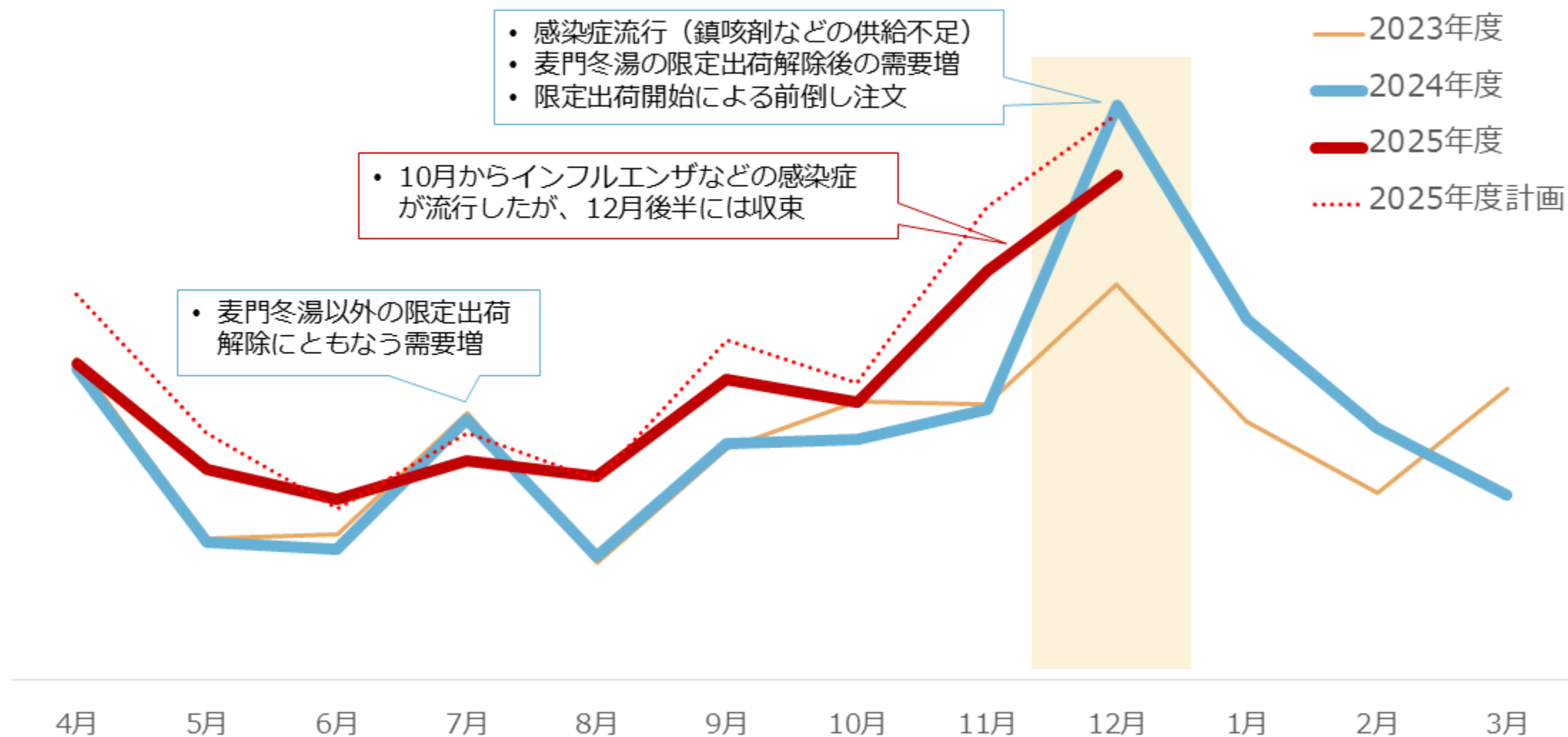
24年度：夏やせなどにも使われ、横ばい状態。

25年度：コロナ需要の反動もあり低迷。がん領域において、がんキャラバンの対象処方に選定のうえ、がん拠点病院などでの活動を強化中。

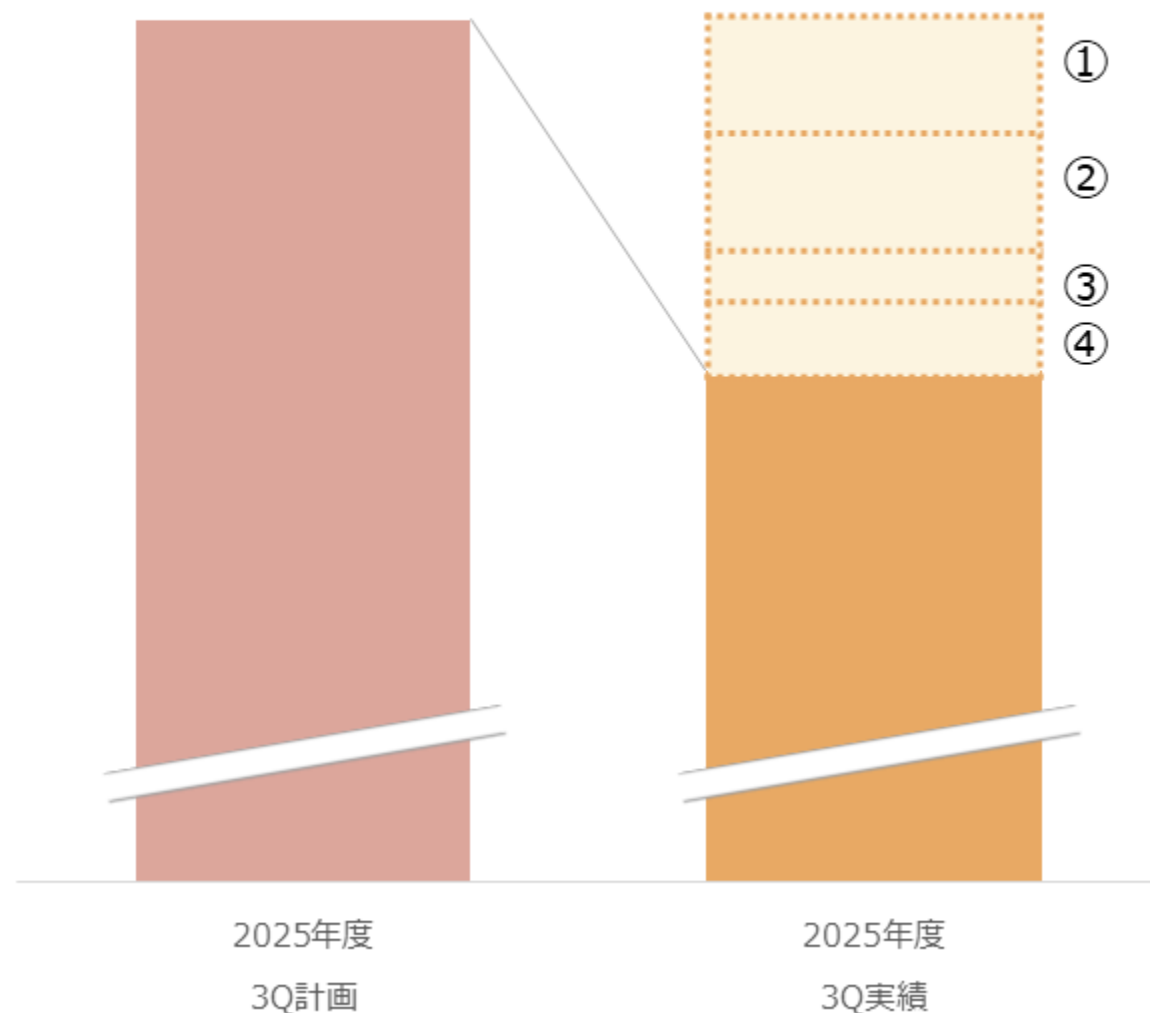
24年度：限定出荷により一部他社製品へ移行。

25年度：1Qに限定出荷解除後、回復に時間を要している。高齢者施設などのターゲット先へのアプローチに加え、がんキャラバンの対象処方に選定。地道に活動し、前年同期間比プラス回復を図る。

前年比の伸長ペースは加速しているが、計画は下回っている



未達要因の分析



① 風邪関連処方

感染症の流行が想定を下回ったことに加え、
鎮咳・去痰剤等の供給が回復した影響

② 限定出荷処方（昨年度3Qから実施）

前年同期に限定出荷となった処方の回復
が想定より遅れている

③ 婦人科関連処方

競合新薬の拡大の影響

④ その他（戦略処方等）

女性関連領域

生理の悩み相談しようプロジェクト

プロジェクト賛同施設（累計）

1,700施設超



実施内容

10月開始：婦人科医療機関と連携し、ポスター／ステッカー掲示で受診・相談を促進

処方動向

当帰芍薬散・桂枝茯苓丸は、競合新薬の影響で苦戦。
加味逍遙散・加味帰脾湯は伸長

今後の展開

賛同施設の拡大とともに処方機会を増やす活動を推進

がん領域（支持療法）

がんキャラバン2025

参加医師数

毎回10,000名超

実施状況

全6回中5回実施済

約300カ所のサテライト会場を設置

回	テーマ	主な処方
1	口腔粘膜炎	半夏瀉心湯
2	食欲不振、悪心・嘔吐	六君子湯
3	精神症状	抑肝散、加味帰脾湯
4	全身倦怠感、疲労感	補中益気湯、人參養栄湯
5	末梢神経障害	牛車腎気丸
6	総復習、副作用	まとめ

今後の展開

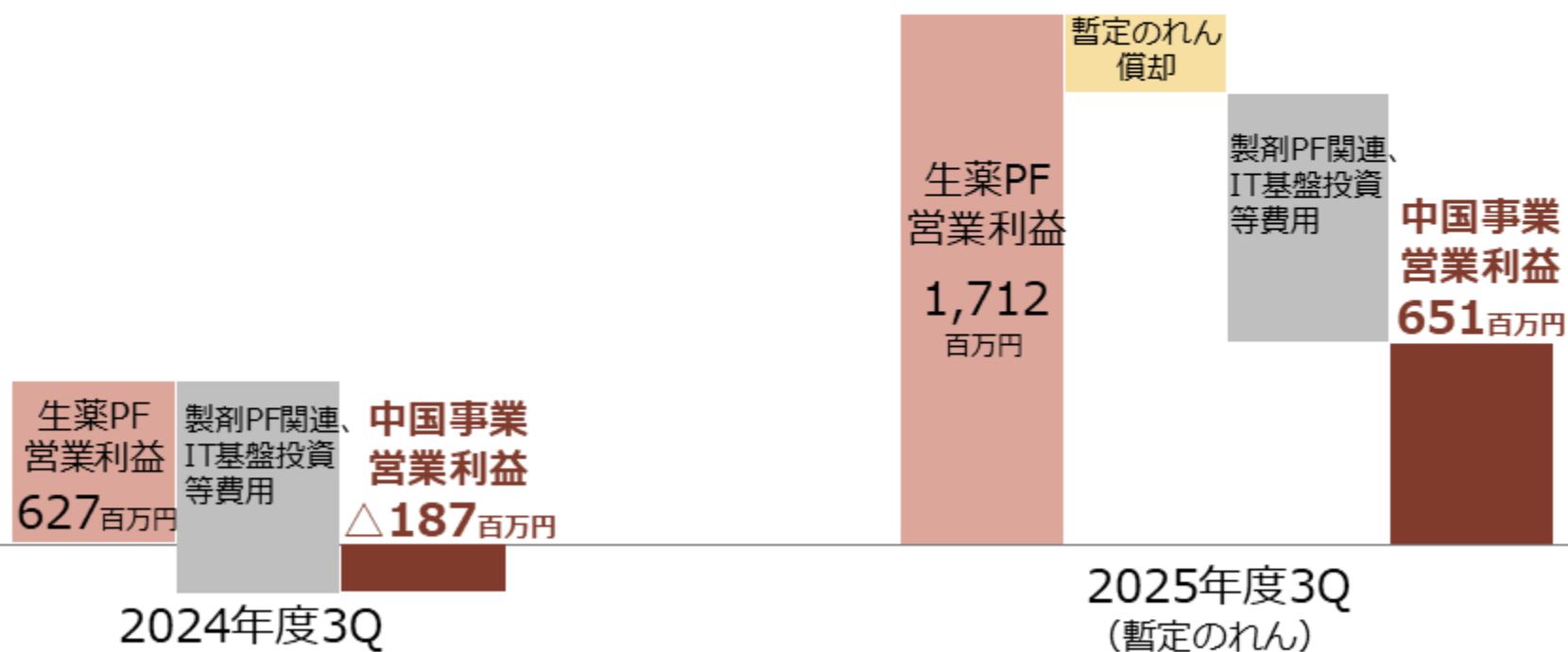
次年度の開催も決定

患者支援に資する処方の提案を継続

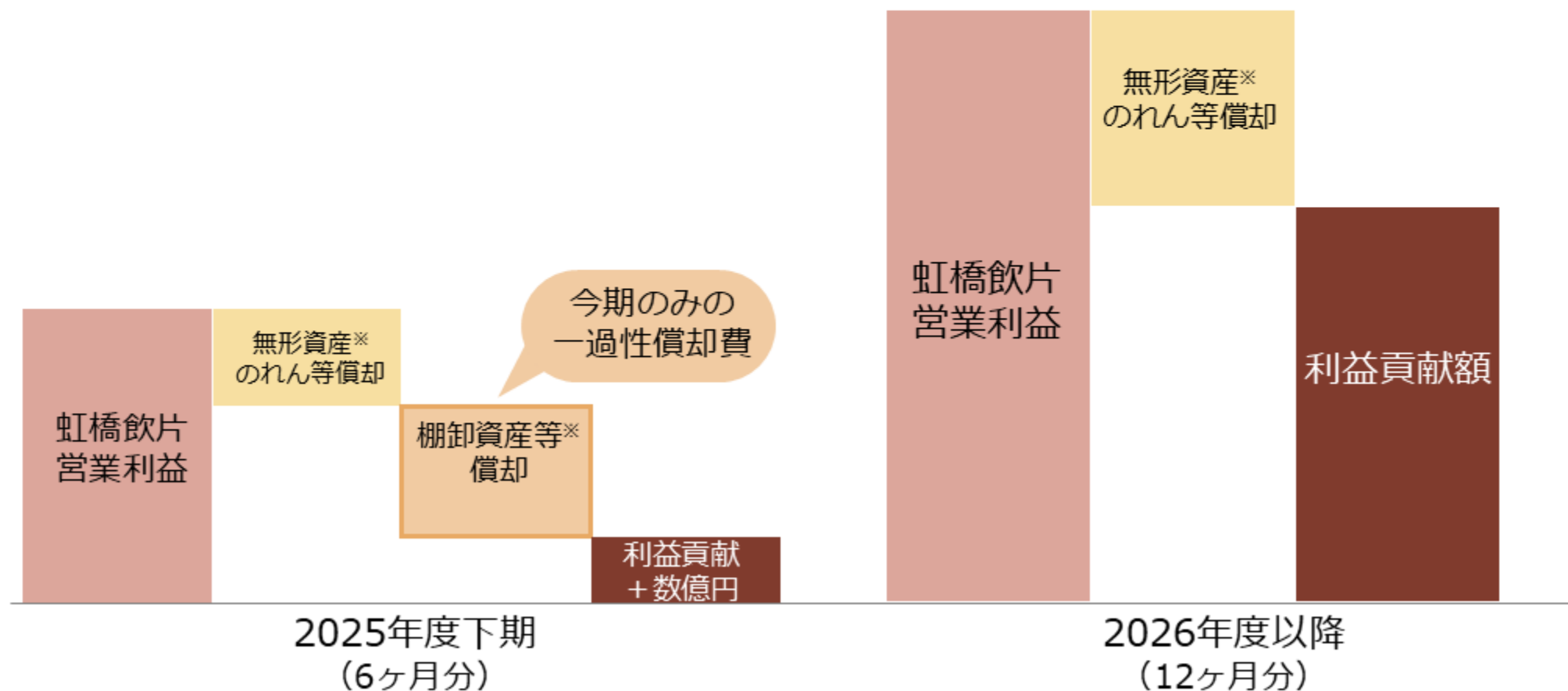
生薬プラットフォームの売上高は原料生薬、飲片ともに増加



虹橋飲片の連結により生薬PFの営業利益が大きく増加したことで中国事業が黒字化



- ・ 2025年度は棚卸資産等の一過性費用が計上されるため利益貢献は軽微
- ・ 2026年度以降は一過性費用がなくなるため、利益貢献額が増加する見通し



売上高は計画達成が困難な状況だが、利益は計画達成を目指す

【百万円】	2025年度 3Q実績	2025年度 通期計画 (11月10日修正)
売上高	145,176	198,000
国内事業	125,543	167,900
中国事業	19,632	30,100
営業利益	28,862	35,000
国内事業	28,211	35,500
中国事業	651	△500
経常利益	31,907	34,500
親会社株主に帰属する 四半期純利益	23,151	24,300

コーポレート・コミュニケーション部

I R推進課

investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

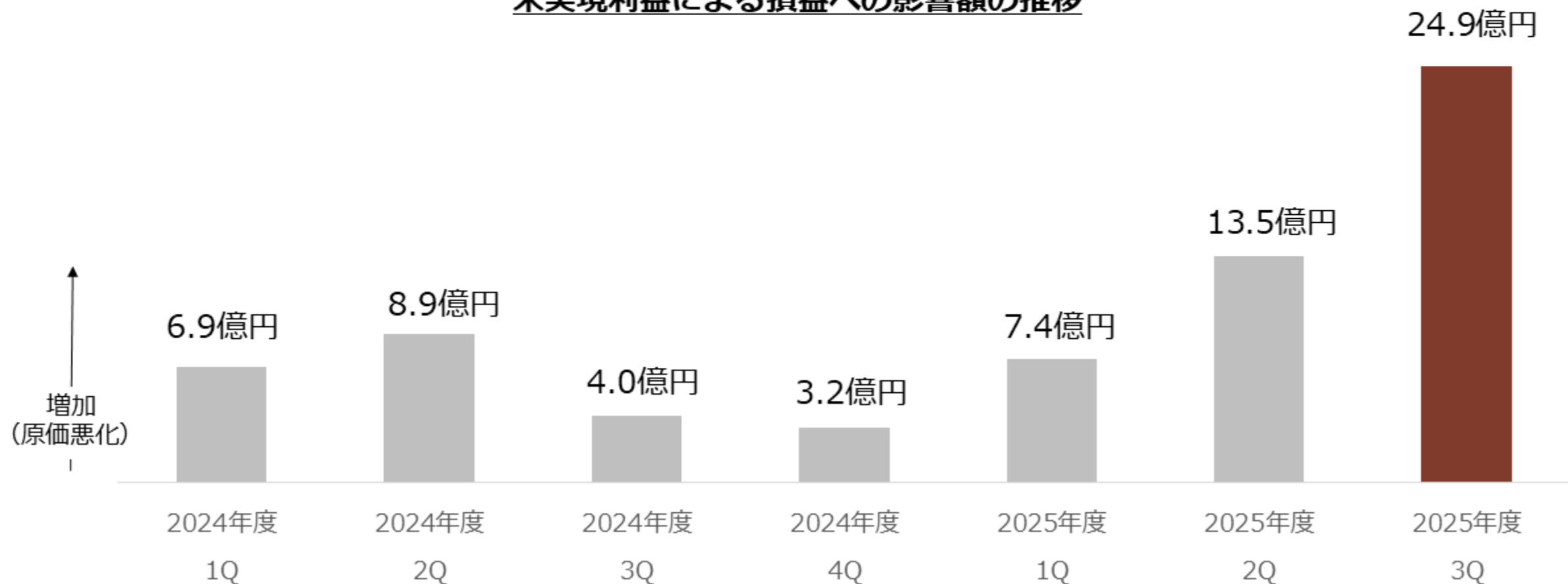
本資料に関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含んでおります。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により販売中止、または売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。
- 本資料には、医薬品（開発品目を含む）に関する情報が含まれておりますが、それらは宣伝広告、医学的なアドバイスを目的としているものではありません。
- 本資料において提供される資料ならびに情報は、予告なしに、変更・追加・削除されることがあります。

Appendix

原料生薬在庫の戦略的な積み増しにより未実現利益が一時的に増加

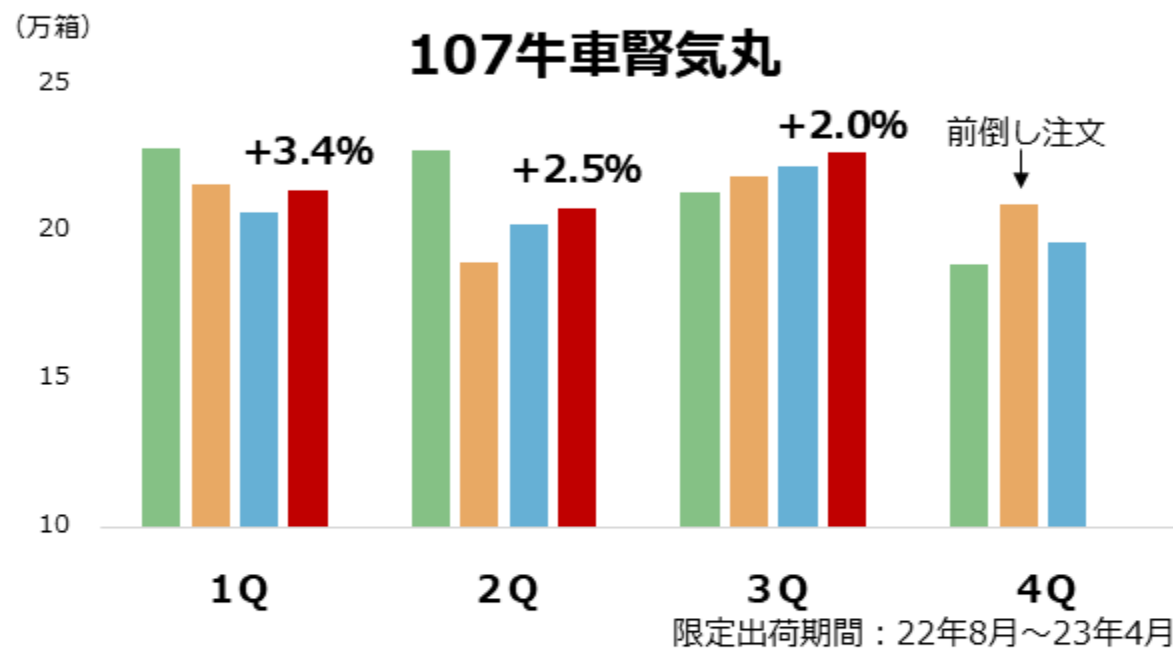
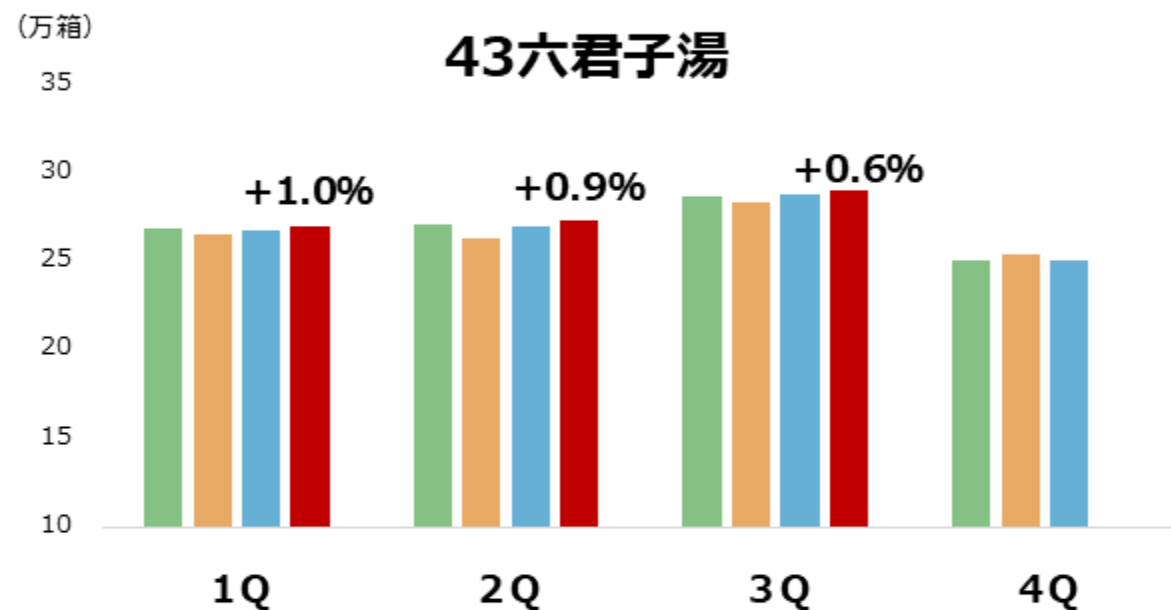
未実現利益による損益への影響額の推移



国内事業：実売数量推移（六君子湯・牛車腎気丸）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度



22～23年度:限定出荷期間中に情報提供を抑制し、新規症例の獲得ができないなかでも、横ばいを維持。

24～25年度:がん領域（支持療法）での病院説明会実施やがんキャラバン2025、Webセミナー等により、胃がん術後の食欲不振に訴求。今後段階的に+3-4%伸長への底上げを目指す。

22～23年度:限定出荷期間が長期間に亘っていたため、解除後の回復に時間を要した。

24年度:薬価改定の前倒し注文の影響により1Q減少。

25年度:高齢者領域における夜間頻尿へのアプローチにより関連処方を含めて伸長。4Qは3Qを超える伸長率を目指す。

国内事業：実売数量推移（半夏瀉心湯・加味逍遙散）



■ 2022年度 ■ 2023年度 ■ 2024年度 ■ 2025年度

(万箱)

6

14半夏瀉心湯

5

4

3

2

1Q

2Q

3Q

4Q

+2.4%

+5.8%

+8.0%

22～23年度:限定出荷期間中の情報提供の抑制もあり、横ばい状態。

24年度:消化器症状（逆流性食道炎による胸やけ、過敏性腸症候群による下痢、口内炎）等の施策奏功。

25年度:がんキャラバン2025の第1回（6月）対象処方選定。3Qに効果発現。大学・臨研・がん拠点病院での活動を展開しさらなる伸長を目指す。

(万箱)

25

24加味逍遙散

20

15

1Q

2Q

3Q

4Q

+1.8%

+2.9%

+1.9%

22年度:コロナ後遺症の倦怠感や不安の症状で伸長。

23～24年度:コロナ需要が減少し、横ばい。

25年度:月経前症候群（PMS）、月経前不快気分障害（PMDD）の精神症状への使い分けを展開、計画通りに伸長。4Qはもう一段の伸長率向上を目指す。

- ・ 2025年度 第2四半期末に貸借対照表を連結、第3四半期から損益計算書を連結
- ・ PPAを実施中のため、第3四半期においては企業結合に係る暫定的な会計処理を実施

連結会計期間

6月末

9月末

12月末

3月末

★PPA完了予定

1Q

2Q

3Q

4Q

虹橋飲片の会計期間

3月末

6月末

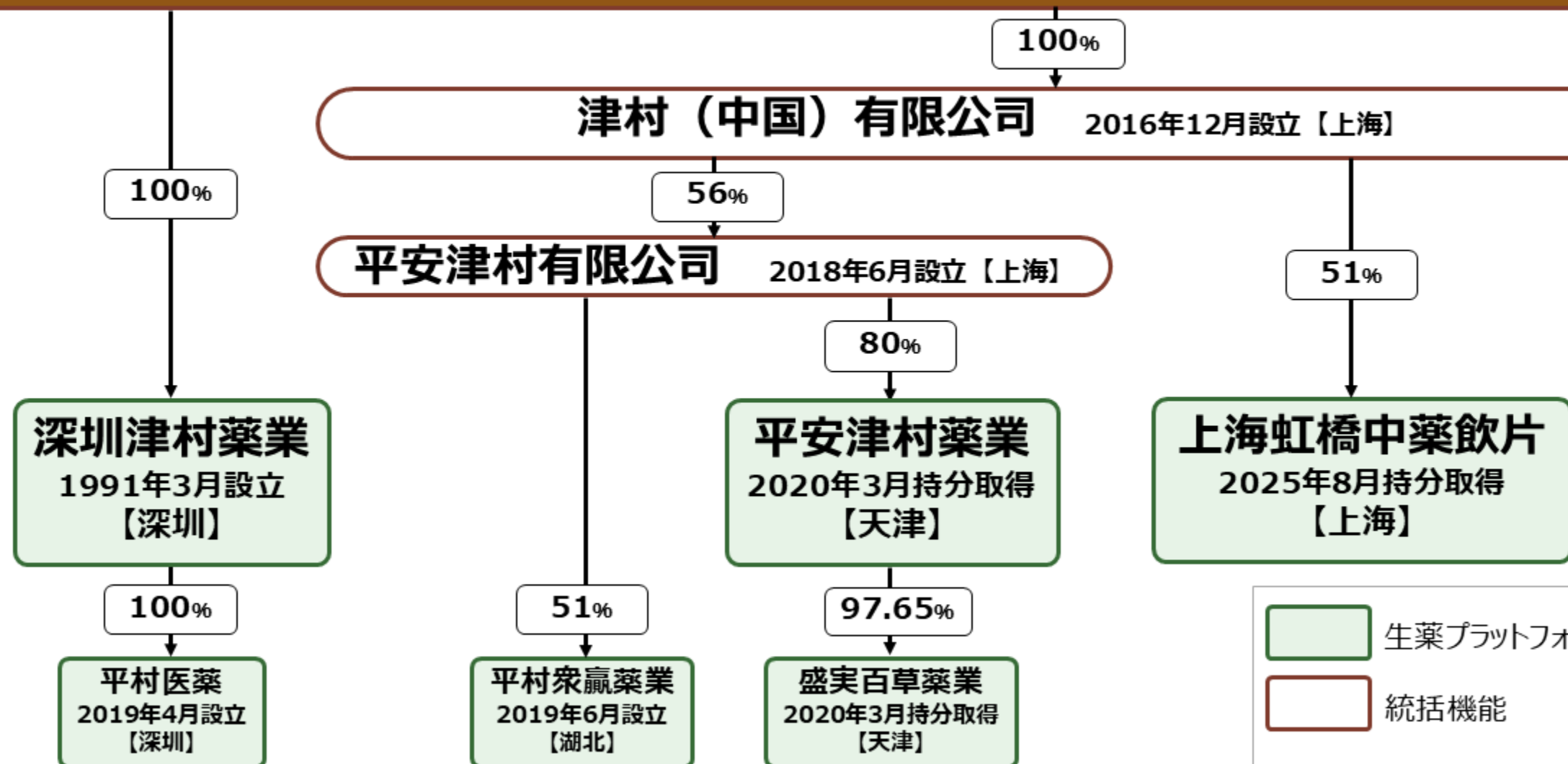
9月末

12月末

★みなし取得日、貸借対照表を連結

損益計算書 連結期間（6か月間）

株式会社ツムラ



為替（円/元） 期中平均レート ： 損益計算書の連結

	1Q	2Q	3Q	4Q	計画
2024年度	20.63	21.07	20.99	21.04	—
2025年度	20.94	20.44	20.50	—	20.30

為替（円/元） 期末レート ： 貸借対照表の連結、為替差益（営業外損益）

	3月末	6月末	9月末	12月末
2024年	20.83	22.04	20.46	21.67
2025年	20.59	20.19	20.88	22.36

※原料生薬や漢方エキス粉末（中間製品）の輸入に関しては為替予約をしているため、上記レートとは異なります。

TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031

事業

1. 診療領域基本処方すべてを処方する医師を50%
2. 漢方標準治療の拡大と漢方治療の個別化
3. 未病の科学化 未病三防（治未病・既病防変・癒後防復）
4. 中国事業の基盤構築（中国事業比率50%以上）
5. 漢方バリューチェーンのDX化
6. パーパス経営・理念経営・ビジョン経営の実践

財務

資本効率
ROE 10%

株主還元
DOE 5%

TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031実現へのロードマップ



第1期中期経営計画
2022－2024



第2期中期経営計画
2025－2027



第3期中期経営計画
2028－2031

医療用漢方事業			
漢方治療の標準化	☆	10処方以上処方医師 50%以上	診療領域基本処方すべて 処方する医師50%
漢方治療の個別化			☆
研究開発			
漢方治療の個別化 未病の科学化	研究	開発	社会実装
中国事業			
製剤PF (中成薬事業)	事業参入検討	参入	シナジー創出
生薬PF (生薬・飲片・大健康製品)	生薬品質の認知拡大	高付加価値製品・サービスの展開	ブランド確立
研究PF	方針検討	基盤構築	業界発展をリード
DX			スマートファクトリー
	IT基盤構築	生成AI活用・IT基盤刷新	データの民主化
労働生産性			生産性2倍 ☆